

大峯奥駈逆峯5泊6日縦走記

実施日；2017年8月9日～14日。奈良市・志岐敬

8月9日から14日の5泊6日で吉野から熊野本宮まで歩いた。4回で奥駈道を通して歩いたが、今回はワンプッシュで歩くのが目的。

1年ほど前からそのために装備を更新、ほぼ全てを買い替えた。昔の装備で使ったのは長袖シャツ(40年以上前に購入したフランスのガイド、ガストン・レビューファモデル)とジュラルミンのスプーン&フォークくらい。それだけ今回の山行には気を入れて臨んだといえる。

結果として、ほぼ予定どおりに行動できたが、行仙宿をはじめ小屋の維持管理、長いルートの整備をいただいている新宮山彦ぐる一ぷさんのお力なしにはできなかつた。そして、何より直接サポートしていただいた青木さん、梶野さん、山本さんのおかげであることに、最初に感謝を申し上げたい。

日程は、天気予報を見ながら10日ほど前に最終的に決めた。雨模様なので、できるだけ小屋を利用することにし、山上ヶ岳の龍泉寺宿坊、弥山小屋、玉置神社を予約、途中、深仙宿と行仙宿の小屋を利用することにした。

深仙がいったいの場合を考えてテントとシュラフカバーを持つが、宿坊、営業小屋の利用、行仙のサポートがあり荷物が軽量化でき、出発時は水3.5リットルにウイスキー少々を入れて15キロの荷物にまとめることができた。

しかし、さすがにワンプッシュの山行はきつかった。毎日毎日がアップアップ(道は急なアップダウン)、なんとか予定をこなしたというのが正直な感想。特に初日9日の四寸岩山から大天井にかけて、台風5号の影響で岩や木の根が濡れて滑りやすく、楽な下りにも気を使い、思いの外に体力を消耗した。

2日目10日は夜半からの雨で、またまた濡れた道でスリップ三昧、岩場や栈道、ハシゴの上り下りに非常に気を使わされた。

この2日間のトラウマか、最終日まで、特に下りはスリップに注意し、晴れていれば持たないロープ、鎖を積極的に使うことになった。ここでも道を整備してもらっている山彦ぐる一ぷさんに助けてもらったことを感謝したい。道標やロープが出てくると力付けられた。

8月9日(水)曇。自宅～吉野～山上ヶ岳宿坊 20.1キ。

自宅を出て近鉄電車で橿原神宮前へ。早朝で接続が悪く計画では橿原神宮前で30分待ちだったが、青木さんが新車で吉野まで送ってくれることに。貴重な30分とルート情報をいただく。ロープウェイのよしのやま駅まで送ってもらい、ここからスタート。後の苦行を思うと、格好をつけず奥千本口まで送ってもらうべきだった。激しく後悔。

7時10分、曇空でさほど熱くないなか、スポーツタイツ、ショートパンツ、網シャツにアンダーウェアで歩き出す。帽子には青木さんプレゼントの鬼ヤンマくんを付け、ザックには自分で買った鬼ヤンマくんをぶら下げる。

熱中症とシャリバテ予防のため、こまめに水と行動食を摂る。水分神社前で小休止。ひと歩きして金峯神社前の東屋にあるポストに登山届けを提出、ここでも水と行動食を口に、タバコを2本喫ってたっぷり休憩。いよいよ山道に入る。熊鈴を付ける。去年

は1日3回も出くわしたので。

試み(心身)茶屋跡に10時10分着。モノレール添いの急登、日陰の樹林の中で、獣が出ないかビビりつつ息を切らして登ること1時間、ブッシュが繁る四寸岩山に到着。曇り空で木の隙間から覗いても展望ゼロ。下りは快調にと言いたいが、滑りそうな岩場を慎重に下る。

11時55分、林道合流点。向こうから元気な足取りの若い修験者が1人で下りてくる。

「今日は」と声をかけると、合掌、目礼ですれ違っていく。しばらくして、ここまで車で来た年配のご夫婦が上る準備を始める。

一足先に出て二蔵小屋前で一服していると、ご夫婦が追いついてきた。足腰を鍛えるため大天井ヶ岳を往復するという。車で入れる所はあちこち歩いているようで、七面山について聞かれる。「格好いい山ですね。でも踏み跡ははっきりしてないですよ」など喋っていると、連れの奥さんが小屋に入り、「ビショビショや」と出てくる。覗いて見ると三方の板張りに水溜りが。窓の建て付けが悪く、隙間から台風の雨が吹き込んだようだ。掃除で時間を潰すこともできず、13時、大天井ヶ岳に取り付く。

ここは去年5月、バテバテになった上り。今回も相性悪く、大天井茶屋跡でたまらず休憩しているうちに年配のご夫婦に追い越される。這々の体で大天井へ辿り着き10分ほど休憩を入れる。

五番関までの下りは何とかコースタイムをキープし、15時5分に着くが、15分と少し長めの休憩。この調子では予定の17時過ぎにはとても山上に着きそうもない。案の定、巻道から今宿跡までアップアップで休み休み、70分を要した。岩場を越えたあたりで、山上の宿坊に予定の17時過ぎにはどうてい着けそうにない旨を連絡。

洞辻茶屋で甘いジュースをと思いながらやっと辿り着くも、お盆休み前というのに営業していない。ここで、軽装で登ってきた若者が先発、軽快に登るのを目で追いながら、重い体を一歩ずつ進める。

陀羅尼助茶屋までの緩い上りに喘ぎ、この先の鐘掛岩を上れるのかと不安にかられるが、一步一步這うように登るしかない。

西の視を過ぎて平坦になっても濡れた岩場で楽にならない。やっと宿坊の灯が見えるが、そこからも岩場の上り下り、何とか電話した19時ちょうどに宿坊に辿り着いた。

宿帳に記帳しながら、スーパードライを1缶、荷物を部屋に運んで、精進料理の夕食に1缶飲むが、疲れ果てて、食事中なのに眠たくなってくる。何とかご飯2杯と味噌汁2杯を腹に詰め込んで、風呂に入る。温かい湯に浸かっているうちに知らずに眠っていた。明日の用意をして21時就寝。



奥千本口バス停の待合小屋は撤去されていた



五番関の女人結界門

8月10日(木)雨のち曇。山上ヶ岳宿坊～小普賢岳～行者還小屋～弥山小屋 14.9^キ。

龍泉寺宿坊、4時30分起床、5時朝食。用を済ませて出発6時。小止みになっていた

雨がまた降り出す。「今日はこんな天気ですから、道中気を付けてください」との若い僧の励まし？の言葉に意を決して雨具上下を着込み、鬼やんまくん着きの帽子にフードを被り玄関を出る。

5分で大峯山寺。開けっぱなしの戸の奥に灯明が見える。さすがお寺さんは朝が早い。小笹宿を目指し下り道に入っただけで、雨に濡れた傾いた栈道で完全にスリップ、木杵を掴んで事なきを得たが、改めて気を引き締める。雨の中、黄色い雨具を着けた単独行者とすれ違う。6時30分、投地藏辻を経て、6時40分、小笹宿。小雨の中、若者が1人ツエル



雨にけぶる大峯山寺

トを片付けている。この後、奥駈道出合を過ぎるまでは人っ子一人出合わなかった。小屋裏の縦走路沿いの沢で水を一口、二口含んで先を急ぐ。7時15分、阿弥陀ヶ森分岐の女人結界門をくぐり、脇ノ宿跡。晴れていたなら山上ヶ岳が望めるが、まったく視界が開けない。水分、行動食、ニコチンを補給して小普賢を目指す。

ひとあたり下ってトラバース気味に進み、小普賢への上り。この辺りは朽ちて黒くなった古木のシルエットが熊に見えてしまう。去年10月に1日で3回も熊に遭遇した人間のトラウマか。

息を切らせながら経函石標識を過ぎ、小普賢を目指す。岩場で右足を踏み出そうとした拍子に左足がスリップ、左手首あたりをしたたか岩にぶつけ、じんわりと血が滲んでくる。滲む血を口に含み吐き出しながら、もう着くか、もう着くかと思いつつ、8時25分に小普賢に到着。まずは一服。写真を撮って、電波が通じるうちにとフェイスブックにアップする。思えば去年の8月に、ここと脇ノ宿跡、弥山小屋で青木さんと言葉を交わしたのが、新宮山彦さんとの出会いだった。

一服して濡れた岩を慎重に下り、20分少々で和佐又分岐に。大普賢に取り付くか、巻道を取るか悩んだが、下りを考えて巻道を選ぶ。多少後ろめたさを感じながら。

15分ほどで水太視着。ここもガスで展望ゼロ。部分的に水たまりになったぬかるんだ道を国見岳へと急ぐ。が、薩摩転げの鎖場では慎重に下って行く。先の休憩から1時間半で稚児泊、9時55分に着く。少し風が吹き抜ける中で15分休憩を入れる。



小雨の小普賢岳で一服

七曜岳まではほんの少しと思うが、濡れた岩の上り、どこから上るねんと弱気の虫が出る。全身を引きずるように、必至で越える。10時45分、やっとピークへ。下りの鎖場を過ぎ5分程で無双洞分岐へ。みなきケルンを目指す。がしんどさに負けて、手前でザックを下ろして水分を補給。七曜岳から1時間でみなきケルン、そこから10分程で行者還岳分岐に。ここでも一休み。そしてピークには目もくれず小屋への道を下る。雫水で冷たい水を期待したが、一滴も出ていない。13日に合った単独行の若者の話では、11日に通った時はたっぷり出ていたそうだ。

行者還小屋に12時20分着。小屋の流しは排水管がつまったらしく、蛇口の水が止めてあった。時間に

余裕があるので、行動食と水分を摂り、トイレを借りて13時出発。

ここからは緩やかなアップダウンで、奥駈道中、唯一と言えるほどの楽な道だが、上りになると息が上がり、ペースが落ちる。ここは楽な道、ハイキングコースだと自分に言い聞かせながら1時間10分で一ノ峠。25分で奥駈道出合に。15分休んで15時に気を取り直して聖宝ノ宿跡に向かう。途中、下りてくるペア5組程とすれ違う。女人結界の山上周辺と違い、人気のルートで女性の姿が目につく。それも若い人だ。

16時、聖宝ノ宿跡。ここから300メートルを一気に上がる。今日、最後の上りに備え20分休憩。しかし、弥山への最後の上り、足が上がりえず途中3回も休んで、17時50分にやっと小屋に辿り着く。テント場には3張程、小屋には1組だけのようだ。濡れた服やザックを乾燥室に吊って、着替えて食堂で夕食。もちろん缶ビール付き。しかし、おかずをビールのつまみにしていると無くなってしまうので、ビールは1本にして、ご飯と味噌汁、残りのおかず（小さいハンバーグとつき合わせの野菜サラダ少々）と味噌汁でご飯2杯を食べて、部屋に戻ってビールを飲みつつ一服。



行者還小屋の流しの水道は止められていた

8月11日(金)曇一時晴。弥山小屋～八経ヶ岳～孔雀覗～釈迦ヶ岳～深仙小屋 9.5*

5時起床。乾燥室の服やザックを取り込む。着替えてパッキング。ショートパンツにしようか迷うが、雨具兼用のズボン着用。これが正解で、濡れた笹漕ぎでも足下は快適だった。6時、朝食。前日の宿坊の精進料理に毛の生えたような食事。といっても納豆が付いている分まだまし。

6時30分、濡れた靴に足を入れ、出発。最初の岩の下りも、濡れていて足場を慎重に選ぶ。鹿避けのゲートを過ぎて、喘ぎつつ上っていると、弥山に泊まっていたと思われる若夫婦が下りてくる。「もう少しですよ、頑張ってください」と声を掛けられ、何だか気恥ずかしい。6時55分、八経ヶ岳。眺望なし。写真を撮り、フェイスブックにアップして出発。弥山辻7時10分。



この日も曇り。ガスに包まれる弥山小屋

禅師ノ森をトラバース気味に進み、1時間で崩落地点へ。濡れて嫌やなー、怖いなーと思いつつ、ロープを手に急な下りを慎重に下る。鞍部で五銚峰を眺めながら小休止。鞍部からの上り出し付近にも崩壊が広がっている。この先、ここらも山抜けしてしまうのだろうか。

小1時間で舟ノ峠。弥山方面も七面山方面もほとんど視界が効かない。30分で楊枝ノ森へ。下り気味のトラバースから尾根に出た辺



修復された石柱標識

りの世界遺産の標識、倒れていたのを新宮山彦ぐる一ぷさんが、最近立て直してくれた。スクッと立つ標識をパチリ。楊子ノ宿手前の崩壊箇所も、同ぐる一ぷが迂回路を設けてくれている。下るとすぐに楊子ノ宿小屋で、10時着。小屋で行動食と水を摂り、一服して10時20分発。

仏生ヶ岳への急な上りをゆっくり進む。この道が長い。150メートルくらい上り、道は大きく曲がり、反対方向へ向かう。合ってるんかいなと2回、iPhoneの地図ソフトを確認する。これが仏生の横駈か。どこまでも続くような長いトラバース、1回転が終わる頃にやっと仏生ヶ岳分岐、11時15分に着く。

分岐から鳥ノ水での休憩を楽しみに進む。暫くは岩の急な下り、その後の歩き易いが長い下りを進み、やっと鳥ノ水に11時50分到着。水量豊富。冷たい水を飲んで、ウイダーinゼリーを1袋飲み干し、空いた容器に水を入れて最後の雫まで飲み干す。

15分で孔雀観。ここも視界なし。两部分けへの下りでやっと釈迦ヶ岳が顔を出す。笹に覆われた平坦な道を25分で两部分け。途中、長靴を履きストックを持った男性と行き違う。挨拶だけで声を掛ける余裕もない。两部分けの下降、ザックがつかえてテラスで、たたらを踏んでしまう。危ない、危ない。上り返して5分で掬の鼻、5分で空鉢岳、12時50分。正面の大きな岩峰を巻いて一気の下り。ここから杖捨ての急登、四つん這い状態で、両脇の笹を持って身体を上げる。稜線まで上がったら馬ノ背と思うが、なかなか辿り着かない。20分程の時間がどれほど長く感じたか。

大きく肩で息をしながら馬ノ背から釈迦への最後の上りに取り付く。鎖やロープを使い、ひたすらよじ登ること30分、やっと樹林帯の上が開けてくる。最後は南側へ回り込むようにして釈迦ヶ岳。眼前に釈迦如来像がそびえ立つ。バテバテで上ってきたが、時間は予定より30分程早い。天気ももっているのので、写真を撮り、水とニコチンを補給して20分休憩。独立したピークなので電波が通じるかと思ったが、不通。

さて深仙宿への下り。どっちを下ろうかと迷う。真っ直ぐ深仙への下りは急だし、千丈平からの巻き道なら電波が通じるのでフェイスブックにアップできると思いつつ分岐に。しかし、下を見ると千丈平への下りも結構な傾斜に見えてしまい、どうせなら少しでも短い方をと直接深仙宿を目指す。

しかし笹に覆われた道は足下がほとんど見えない。そんなところに岩の段差が隠れていて、慎重に下る。30分の下りと思うが、トラバース気味から稜線に戻ったりと、なかなか鞍部への気配がない。やっと灌頂堂の屋根が見え、青い深仙宿小屋が見えてくるが、ガレ場の下りで、気持ちは急げど身体は進まない。40分かかって14時45分、やっと深仙宿小屋に着く。

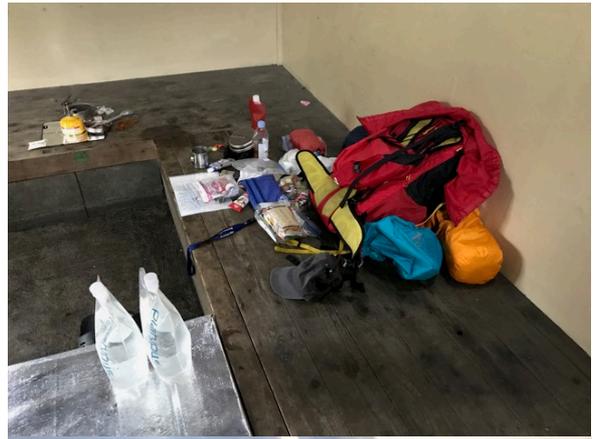


釈迦ヶ岳の釈迦如来像とわがザック

一服して、香水の水汲みに。山彦ぐるーぷさんがホースを着けてくれているので流れも良く、汲みやすい。2リットルプラティバス2本に1.5リットルずつ補充。大きなヤカンが転がって、葉っぱが詰まっていたのを、綺麗にしてホース下にセット。

小屋に戻り湯を沸かし、タバコを喫いながら、コンデンスミルクを溶かしてホットミルクとホットウイスキーを楽しむ。行動食のソーセージを焼いてあてにする。天気はもっているが、雲が厚い。まったりしてフリーズドライのチキンカツとアルファ米の晩ご飯を食べていると、5時前に前鬼から上ってきた単独行の男性が小屋に入ってくる。30分程後、同じく前鬼から上ってきた単独行の男性が着く。今夜はこの3人。それぞれの場所を決め、思い思いに食事や晩酌で時間をつぶす。連れができて寂しくなくなったが、タバコを喫うのに、いちいち外に出るのが面倒。

ソーラー電池を使ったLED照明に感謝。充電器を借りて携帯用バッテリーに充電する。小屋の備品のシュラフと毛布を借り、明日の起床時間を告げて20時頃に横になる。しかし、寝苦しく夜間に何度も目を覚ます。



綺麗に整備された深仙宿小屋でくつろぐ。夕刻の雲海が幻想的

8月12日(土)曇のち晴。深仙ノ宿～太古ノ辻～持経宿～平治ノ宿～行仙宿 14.9^キ。

4時30分起床。ヘッドランプを点けて、ソースを絡めたパスタを茹でて朝食。白湯、水をたっぷり飲んで、一服して、5時30分に出発。この日の宿、行仙宿には新宮山彦の梶野さんと奈良の山本さんがサポートに上がって、ビールと食事を持って来てくれている。メールで「すき焼き」との連絡。歩きにも力が入る。

深仙宿から太古ノ辻も笹が道を覆っている。太古の辻の直前、忽然と道が消えて目の前に岩場が。よく見るとルートはこの岩場をへつるようにして先へ延びている。奥駈道はまったく気が抜けない。



太古の辻。ここが丁度コースの中間点

20分で太古の辻。“これより大峯南奥駈道”の看板。吉野から45^キを歩き、行程はちょうど半ば。今日のルートは長いけどアップダウンはそんなになく、一番楽な日になるかと思っただが、そんなに甘くなかった。

蘇莫岳6時5分、天狗山7時、奥守岳7時20分と、ここらは快調に進む。嫁越峠までの下りの広がった尾根部で踏み跡を何度か外すが、すぐ復帰。急な下りは思いの外手間取る。嫁越峠7時50分、地藏岳8時20分。ここで今日初めての小休止。般若岳まで大した上りではないが必死に足を進める。急な下りを下りて滝川辻に9時10分着。出発が予定より



整頓されて綺麗な持経宿



倶利伽羅岳手前、ガスの切れ目からの陽差し

30分早かったこともあり、ここまでは計画より1時間早い。心の中で“よしよし”と自らを褒め、励まして、先を急ぐ。

しかし、乾光門から涅槃岳にかけて、疲れてきて涅槃岳で10分休憩。ここからペースダウン。証誠無漏岳まで1時間を超える。

いつのまにか計画の時間に後退。なんとか気を取り直して阿須迦利岳に12時20分、ひたすら下って12時40分に持経宿。水、行動食を口にして、一服して13時出発。

持経千年檜を越えての急登、なんとか中又尾根分岐を越え、平治ノ宿に14時。なんとか予定時間で来たが、ここで20分休憩、トイレを借り、やけくそでタバコを2本。小屋にポカリの飲みさしがあったので、口に含むが無味無臭。はき出して持参の水を飲む。甘さに飢えていたのだろう。

転法輪岳まではなんとか頑張るが、倶利伽羅岳までが遠かった。ピーク手前でたまらず休憩。水を飲んで気合いを入れ歩き出す。鎖場を越えて15時40分着。ここでも10分の休憩で息をつなぐ。この先の方向転換点、コースを間違えないようにロープを張って正面を通せんぼ。ここまでしていただくと地図を見な

くても迷い込みようがないはず。

怒田宿跡まで小さなアップダウンが続く。いい加減上りは止めてほしい。なんとか1時間ほどで到着、16時50分。あまり遅くなると心配をかけると思い、辛いが休みを取らず行仙岳の上りに取り付く。階段に手をかけながら重い身体を引き上げる。ピークあたりまで様子を見に来てくれたらな〜と勝手に妄想を膨らましながら巻道分岐へ。時間を考えて迷わず左、巻道を選ぶ。迎えと行き違ったらとかはもう思わない。平坦だが、落ち葉をかぶったガレ道をひたすら歩き縦走路に戻る。気持ちは急くが、小屋まで10分の標識から遠いこと。切り出した丸太が見える。もうそこと思い、疲れた身体にむち打ち小走りで進む。17時40分、予定より10分遅れてこの日のゴール行仙宿に到着。



行仙宿でのおもてなしに大満足の図(梶野さん撮影)

梶野さんがペットボトルに如雨露の口を付けて、これでシャワーせいと、くみ上げてきてくれた冷たい水を入れて出してくれる。山本さんには冷たいビール、冷たいウイスキーの水割りを出してもらおう。玄関前で、素っ裸になり、1割の水を使って全身シャワーで汗を流し、サポートで上げてもらった下着に着替えて息を吹き返す。

靴は雨と露で湿って泥まみれになっていたのを、梶野さんが

発電機の熱で乾かしてくれる。濡れた下着などを発電機が回る小屋に持ち込み、ハンガーをかけようとすると、梶野さんが大工仕事でロープを渡してくれる。ほんとに至れり尽くせりの歓待に、同宿の2人組も、「すごいおもてなしですな」と驚いていた。

一息ついて豪勢なすき焼き宴会が始まる。山本さん持参のビールを飲み干し、追加を梶野さんが管理棟から運んでくれる。食後のコーヒーはいつも入れない砂糖を入れる。デザートフルーツをいただき、タバコをくゆらし、ウイスキーをチビリ。まったりして22時就寝。

8月13日(日)晴れ。行仙宿～地蔵岳～古屋宿跡～展望台～玉置山～玉置神社 13.9^キ。

前日よく飲み、よく食べたせいで夜中に何回もトイレに立ち、その度に乾いた喉に水を補給。トイレも10歩も要しないので楽ちん。起きる少し前、山本さんが意味不明な長い寝言を発する。4時30分起床。山本さんがハム、チーズ、レタスのサンドイッチとスープを作ってくれる。コーヒーを飲み、グレープフルーツをほおぼり、小屋でタバコをさんざん喫って、6時出発。小屋前で3人で記念写真。



笠捨山は梶野さんのありがたい助言を受けて旧逋信道へ。葛川辻ちかく、涸れた沢で木の栈道が落ち、道が寸断されている。上から回るか、下から回るか迷うが、安全そうな下を選択。そこからひとがんばりで葛川辻に8時5分着。小休止し、振り返ると若者が1人、体育座りで休憩している。聞くと、2泊3日で歩くつもりで、初日に行者還小屋、2日目に持経に泊まったが、調子が悪くて今日は玉置神社までにするとのこと。同じ行程なので、連れがあった方がお互い楽だろうと、一緒に歩くことにする。



行仙宿の出発前。梶野さん(右)のセルフタイマーで山本さん(左)と記念撮影。下は山本さん撮影

槍から地蔵の鎖場を越え、6メートルの懸垂。2人ともザックは担いだまま慎重に下りる。9時前だが、今日最大の難所を越えたので、懸垂鎖場下で休憩。山本さん手作りのサンドイッチを分けてあげる。ストーブも食器も持たず、乾き物ばかり口にしていて、野菜入りに感激していた。

15分休憩し9時10分出発。四阿宿跡、香精山、貝吹金剛、21世紀の森分岐とほぼ予定の時間でこなす。しかし、香精山からの下りは厳しい。いつ転げてもおかしくない。少しも気が抜けない。ずっと下って傾斜が緩むと気も身体も楽になり、ペースが上がる。

古屋宿跡から如意宝珠岳へ上って13時30分。青木さんから聞いていた玉置神社駐車場の売店の親父さんに電話、2人分のうどんとさんま鮎を予約する。後2時間と伝える

が、花折塚への上がりあたりからペースダウン。林道と合流するところで、わざと道路端に座り込んで休憩、通りすがりの車が声をかけてくれないかと期待する。そんな虫の良いことはなく、ひたすらトラバース気味に山道を登る。

15時、展望台着、トイレ休憩。世界遺産碑を過ぎ、かつえ坂の上りにペースは上がり、進めど進めど玉置山の鉄塔は目に入ってこない。15時50分、玉置山着。

玉置神社への下りは、ピーク三角点の手前で左の疎林に入り込み、すぐルートが違うことに気づき引き返す。玉置神社に着く前あたり、家族連れやカップル数組とすれ違う。予定を40分過ぎる16時10分に到着。連れを待たせて、社務所に誓約書を渡し、6,000円を払い、部屋の前にザックを置いて、食事へ行ってきますと言い残し、駐車場へ向かう。

道中、昼過ぎから2人で、売店ではビールとコーラを飲もうなど飲み物を楽しみに歩いてきたが、神社から駐車場までの道のりが長い。15分程だがなかなか着かない。やっとたどり着き待望の缶ビールで乾杯。タバコをふかしてゆったりくつろぐ。コーラがなかったので、邪を払うというジャバラサイダーでビールの間を埋める。これが柑橘が効いて甘さもあってなかなか。椎茸うどんをあてにビールをもう1本。連れは1本で終わりさんま鮓を食す。その間も、18時近いのに車を乗り付け、神社へ向かう若者もけっこういる。“パワースポット”の人気の高さだろうか。1時間ほど売店の親父さんとの会話を楽しみ、さんま鮓とビールを買い込み社務所へ。

お神酒を有り難くサイダーのボトルに入れ、神官に帰りの報告。時間がかかりましたねと嫌みを言われる。風呂を済ませ、ビールを飲みながらさんま鮓で夕食とする。部屋は20畳あまり、端っこにぼつんと布団が一組だけ置いてある。入り口側には折りたたみの長机。その上にポット2本。お茶と白湯が用意してくれてあった。アルコールを入れた後は、水分補給にお茶を半分以上飲み干す。部屋にはWi-Fiルーターらしきものがあったが、わがiPhoneには反応なし。電波が通じないと、人がいる建物なのにニュースや天気予報などまったく分からない。広い部屋でごろごろしながら、21時前に気を取り直して明日のパッキングをすませ、就寝。

8月14日(月)晴れ。玉置神社～大森山～五大尊岳～金剛多和～山在峠～本宮旧社地 16.8*

4時30分起床。部屋のポットの湯を使い天野屋のかに雑炊を半分に折り、紙コップ2個にそれぞれ入れて戻して食す。お茶もたっぷり飲んで、洋式トイレを使い、一服。5時30分に出発。使った紙コップと食糧の空袋は鮓のパックとまとめて部屋に残す。ビール空き缶を残すのはさすがに気が引けて、ザックに入れる。

玉置辻には6時前に着く。林道向かいにあったガードレールが無くなっている。付け替だろうか。

6時30分、水呑金剛分岐。ここから急登が始まる。35分で大平多山分岐、やや傾斜が落ちて、20分で大森山、7時25分着。ここで今日最初の休憩。たっぷり水を飲み、タバコも喫ってゆっくり休憩し、7時45分出発。



玉置神社社務所前の御神酒。有り難く頂きました



五大尊岳南峰で一服

急な下り、ロープを張ってあるのがありがたい。急なところはスリップしないよう意識してスピードを落とす。傾斜が落ち、尾根を回り込むと切畑辻。喘ぎつつ8時25分着。ここでもゆっくり15分休憩をとる。

急な上り25分で五大尊岳北峰。感覚的にはもっと長い時間歩いたような疲れを感じる。それでも、ここは写真撮影だけで南峰をめざす。25分を要し9時30分、南峰着。さすがにここでは10分の休憩。

この先も大森山に負けない激下りが待っている。息を整えて、覚悟を決めて300メートルの下りにかかる。急な下りに細い尾根を辿り、また急な下りを繰り返す。もう休みたい一心だが、傾斜が落ちてきた樹林帯をひたすら下り続け、10時30分に金剛多和着。50分の行程だった。

金剛多和ではザックに座りこんで、元気回復にと最後のウインターゼリーを飲み干す。水もたっぷり

飲み、塩飴タブレットをかじる。疲れもあり、予定時間より早いので、たっぷり30分休憩。11時、重くもないザックをよいしょとばかりに担ぎ、出発。長い休憩をとったので、ここで予定時間を少しオーバーした。

大黒天神岳は実質的な最後のの上りだと言いつつ先を急ぐ。歩き出すとすぐ、水場を示す立派な標識。後で見ると梶野さんから、「すぐなので水場の様子を見てきてください」とのメール。一度は水場を見ておきたいとの思いもありつつ、この時は1歩でも本宮に近づきたい気でいっぱい。水場確認は放棄する。休憩時にメールを見てたらどうしたかな？

なんとか上りきって11時25分、大黒天神岳。後はたいしたアップダウンはないなと高をくくっていたが、山在峠が遠いこと。30分の予定に1時間5分を要した。止まっただけなのに、これだけの時間がかかるのは相当まいってきたということ。やっと、狭い道沿いにネットを張った畑らしい所まで下りてきて、下には熊野川が見える。村のざわめきも何となく伝わってくる。この辺りで、ペットボトルを両手に持ち、イヤフォンをした若者が、荷物もなく勢いよく上ってくる。こんなところにペットボトルだけもって何をしているのか、天狗の化身かと考える。この若者、山在峠にへたりこんでいる時に手ぶらで戻ってきて、吹越山へ上っていった。いったい何者なんだ。

いらぬことを考えつつ、這々の体で12時30分、山在峠。林道に下りて脇の案内板前にへたりこんで休憩。目の前を軽トラックが上っていく。荷台の子どもが何か喚いているが聞き取れない。帰りに乗せていってやると言ってるのかと勝手に想像、20分も休憩。トラックが引き返すはずもなく、12時50分、重たい腰を上げる。吹越山への取り付きが急登に感じるが、やり過ごしてからは気合いを入れ直して、気持ちの上ではペースを上げる。

山在峠から1時間、13時50分に吹越峠に着く。な



金剛多和。もう一息と思ったが…

んの変哲も無い交差路だが、去年の記憶からここからはもう一息との安心感と疲れから15分休憩。14時5分に出発、5分で展望台。大斎原を写真に収めフェイスブックにアップ。階段状の道を下り、14時25分に七越峰。数メートルの上りも嫌で、右の巻道を取るが、余り歩いた跡がなく急なガレ道に落ち葉がかぶり、足下を崩しながら下りる。30分余りで備崎橋。15時15分に大斎原入り口に着く。

ここから本宮に参内するよりも入り口脇にある酒屋さんのビールが有り難い。しかし、全身汗まみれ、トイレも使いたい。見回すと大斎原入り口左に立派な公衆トイレがある。多機能トイレには蛇腹が延びるホース付きの蛇口まである。ベビーベッドを倒し、荷物を乗せ、素っ裸になって水を浴びて全身を清める。本来は熊野川で清めるところだが。

下着を替え、こざっぱりして、酒屋に入り、角打ちではないがカウンターで缶ビール350ミリをプシュッ。昨日の若者との話を思い出し、コーラも一緒に喉に流し込む。ビールの味はしなくなるが、コーラの甘さが心地よい。ビールをもう一缶とパンを買ってバスセンターに向かうが、途中にかき氷の暖簾。思わず引き込まれ、梅エキスがけのかき氷をいただく。

16時45分発の龍神バスで田辺に向かう。外人の観光客も多く、途中の湯泉地温泉などで降りていく。車内では缶ビールとスポーツドリンク、パンを食べながら、久しぶりにフェイスブックとメールに目を通す。梶野さんからの金剛多和の水場の件を目にしたのもバス車内だった。あれこれしていると山本さんから車で田辺まで迎えに来ているとのメール。有り難い。

行きの青木さんの送り、行仙での梶野さんと山本さんのご接待、そして山本さんのお迎え、最初から最後までみなさんのお世話になった山行だった。

8月15日 自宅

泥まみれになった登山靴を綺麗にしてワックスがけ、雨具兼用のズボンの洗濯、防水加工、アイロンかけなど、後始末に2日を使う。ちょっと長い山歩きをすると太股やふくらはぎがパンパンになるものだが、この大峯行きではまったく筋肉痛が出なかった。歩いている最中も、昼近くからはとにかくシンドイ歩きだったが、不思議と筋肉通は出なかった。装備全体がそんなに重くなかったのと、このために新調したローバ登山靴が良かったのだろう。

山行が終わって1月近く経ったが、何回も繰り返すが、直接サポートしていただいた3人、そして長い間、ルートを維持・管理していただいている新宮山彦ぐる一ぷさんへの感謝は薄らぐことがない。ほんとうにありがとうございます。そして、また思う。大峯に行こう。